第9回医学図書館員基礎研修会を終えて

四方田 均*

鶴見大学図書館

I. はじめに

日本医学図書館協会(以下協会)主催による第9回医学図書館員基礎研修会は、平成14年8月7日から9日にかけて、鶴見大学図書館視聴覚ホールを主会場として開催された。今回のテーマは、「日常業務にあらたな視点を：討論で見直す自分の仕事」と題して、研修の講義内容と職場での問題点をつなげようと企画したものである。具体的には、受講した講義内容をもとに各講義テーマについて全てに別途、討論を加え、講師の方にも参加してサポートしてもらう形式とした。

開催案内には、講義・討論のセットを明記して参加を募ったが、受講者は最終的に51名になった。協会加盟館からは33名。意外なことに、女性の参加者が圧倒的に多く、78%にもなった。ま

た、医学図書館での経験年数が2年未満の受講者が63%にもなった。受講者は、北は北海道から、南は鹿児島県まで多彩な参加となった。

II. 開催に至るまでの経緯

全国の地区ブロックの持ち回りにより、第9回(平成14年)は関東地区が担当予定になっていた。平成13年10月30日の地区会での当番館選考では、館種別にそれぞれ輪番制をとっていたため、予期せぬまま東邦、防医、麻布、聖ルカ、鶴館の5館が、晴天の霹靂のごとく引き受けることになった。

開催の準備や運営については、機関誌「医学図書館」の開催報告や、以前の実行委員会の資料などを参考にさせていただいた。

1. 実行委員会の立ち上げ

担当館は上述の5館であるが、実行委員としては、東邦、防医、鶴館それぞれが2名の委員を出

*Hitoshi YOMODA : 〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見2-1-3.
Tel.045-580-8267 Fax.045-584-8197
yomoda-h@tsurumi-u.ac.jp

(2002年9月24日 受理)

し、計8名で運営していくことになった。1回目の委員会は平成14年1月24日に開催。まずは、委員の役割および事務局を決めた。幸い、鶴見大学図書館で会場を提供できる状況であったため、実行委員会の事務局も当該館に設定することになった。それにあわせて、事務局専用のメールアドレスも用意した。

開催時期は、ほかの関連集会や会場校の行事などを考慮して、8月の第2週とした。

2. 研修プログラム

まず、以前の研修会のプログラムを参考にし、大枠は踏襲することにしたが、今回はそれとは別に、多少の変更をすると同時に、新機軸も加えた。大勢は、基礎研修会の主旨を考え、あくまで業務としての基本的な項目に標準を定めた。また、協会の活動といった周辺的な紹介は省略し、講演も1本にしぼり、講義中心とした内容とグループ討議に重点をおいた。具体的には、4題のテーマに大別し、それぞれにグループ討議をセットした。テーマ別では、図書に関して2講義。相互貸借が1講義。雑誌についてが2講義。そして、情報検索も2講義とした。

おもに、2コマの講義のあと、会場を移動した討議としたため、多少の気分転換にはなったかと思われる。

講義の方は、講演も含め、当節はやりのパワーポイントを使用したケースが目立った。視覚的には、確かに説得性に優れている。一方、グループ討議の方は、当然、参加者全員が初対面となるため、それなりの工夫が必要となった。事前のグループ分けは当然だが、そのまま各テーブルに放置するというわけにもいかず、各グループには進行役を事前に依頼した。ところがここで、参加者の63%が経験年数2年未満、という実態が、予想外とはいえ負荷と思えてきた。確かに、受講者にとっては霧中のごとく討論の手探り状態が予想され、

委員会にとっても難題に違いはなかった。

3. 講演者・講師の依頼

講演と講演者は、もちろんセットで候補を検討したが、選考に迷うほどリストアップはできなかった。講義の講師については、やはり、地区の加盟館数からいって恵まれた状況にあったが、要点はむしろ新しい人材の発掘であり、その点を考慮した。したがって、以前に依頼した講師は除外することを原則として、各委員が、これは、と思う候補者をテーマ別に出しあい、その中からしぼり込んだ。それでも、結果的には3分の1程度、ベテランの人選となってしまった。

ともあれ、講演者・講師が決定した時点で、事前準備の峠は越したも同然と、一段落を決め込む余裕も生まれたような気がする。

4. 開催案内

開催要項を協会機関誌「医学図書館」に掲載したが、それ以外にも、「薬学図書館」、「病院図書館」、「ほすびたる らいぶらりあん」などの類縁機関誌にも掲載を依頼した。さらに、協会中央事務局より、プログラムや参加申込書を添付した案内一式を協会加盟館へ配送した。参加申込書には、氏名・所属のほか、事前アンケート、懇親会の出欠および昼食の申込などを付け加えた。

当初は、申込が芳しくなく不安を抱いたが、最終的には、前回とほぼ同様な数字となった。申込の様式は、ほとんどがファックス送信によるものであった。

5. 講師との連絡・会合

講師との連絡は、実行委員のメールアドレスを含めた通信表を配信し、おもにメール交信とした。テキスト用の原稿依頼は、講師決定後、早々に済ませた。講師との会合は、6月に一度全員を会して行った。委員会側からの要望を含め、意見交換

の形。講義の進め方については、特に2コマにまたがったものについては内容の重複を避けてもらうよう、要請した。また、講義で用いる資料や機材についても確認した。

講義後の討議については、全てのグループを巡回してもらうこと、出講日のほかの討議にも加わってもらうことも併せて要請した。最後に会場ホールと使用予定の機材などを見てもらった。

6. テキストの作成・送付

今回は、事前に、遅くとも8月上旬までには参加者にテキストを送付したいと計画した。1週間ほどの余裕をもった予習ができれば、と考えていた。参加者の経験年数や事前アンケートの結果を考慮すると、少なくとも、現在の担当業務以外については、講義の事前概略が必要と思われた。

Ⅲ. 研修会の日程

研修会3日間の日程を、講演・講義と討論のプログラムに沿って概説する。

1. 第1日（8月7日）

午前の部は、開会式、ガイダンスの後、慶應義塾大学文学部の高山正也先生より、「図書館サービスの将来動向と職員の能力」と題して講演をいただいた。図書館という制度がおかれている社会的状況、また、図書館業務の効率性や独自性の現状と動向などを、時代の変革というマクロな文脈から提言された。

午後に入って、図書に関する講義を2コマ行った。まず、山本千津子氏（慈恵）より収集、受入、蔵書構築などについて講義が行われた。2コマ目は、長谷川博子氏（慶応）の目録および分類の講義が続いた。その後、休憩をはさんで、6グループに分かれた討議に入る。

その日のプログラム終了後には、学生食堂で懇

親会を催した。幸い、懇親会のほとんどの参加者が最後まで懇談に加わり、親睦を深めることができた。

2. 第2日（8月8日）

2日目の午前、阿部美子氏（北里）により、白金図書館を例としながら、相互貸借に関する業務処理全般から、使用する資料やホームページなどまで、網羅した解説がされた。その後、引き続きグループ別討議に入ったが、午後の講義の講師の方々にも討論に加わっていただいた。

午後は、雑誌に関する2コマの連続講義となった。前半は、宇野彰男氏（北医）による、従来型の印刷形式のものに焦点を絞り、受入から利用までルーチンに沿った説明がされた。また、テキストには広範な参考文献を添えていただき、復習には大いに役立つものとなるに違いない。

後半は、現在の話題の渦中にある電子ジャーナルについて、児玉関氏（杏林）より、流通形態や購読方式、また最近の出版動向までを含めた概説。その後の討論でも、質疑百出のようであった。

2日目の最終日程では、会場となった鶴見大学図書館を見学した。

3. 第3日（8月9日）

最終日は、情報検索の講義とその討論のみとなった。前半の講義は、兼岩健二氏（順天）の医学用語について、MeSHを中心とした統制用語から、用語自体の接頭語や接尾語の語根まで解説された。後半は、牛澤典子氏（東邦）、平輪麻里子氏（東邦）の両講師に、それぞれPubMedと医中誌の使い方を実践的に解説していただいた。討論の方も、その後の休憩時間がなくなるほどの盛況ぶりであった。

最後に、研修会の全日程の受講者に実行委員より修了証書が授与された。

IV. 研修会を終えて

研修会も無事に終了し、8月26日に最終委員会を開き、開催後のアンケート結果をもとに今回の研修会の総括を行った。今回の企画の特色は、グループ別討議であったが、賛否両論の集計結果となった。討論の存在は概ね肯定的であったが、その運営についてはいささか注文なしとはならなかった。所属機関や経験年数など、構成の偏らぬ均等性を考慮したのだが、むしろメンバーの同質性を求める声もあった。また、期間中、同一班ではなく、メンバーの組み替えを期待したものもあった。今後の開催の参考にされたい。

テキストの構成と事前配布は好評であり、今後教科書として使っていきたい、という声には、執筆者としての講師の方々に感謝すると同時に、実行委員会としても、より多くの方に利用できないか、という気概が生じている。生産物としてのテキストを、今後どのように活用、ないしはアクセス可能にするのか、協会としても看過できぬ問題であろうと思われる。

今回の研修会でお世話になった講師の皆様、また、グループ討議の進行役を快諾いただいた受講者の皆様にあらためてお礼申し上げます。

第9回医学図書館員基礎研修会プログラム

第1日 8月7日(水)

- 10:00~10:30 開会式・ガイダンス
- 10:30~12:00 講演：これからの図書館サービスの将来動向と職員の能力
講演者：高山正也（慶應義塾大学文学部）
- 13:00~14:00 講義1：図書1（図書の収集・受入、蔵書構築）
講師：山本千津子（東京慈恵会医科大学医学情報センター）
- 14:00~15:00 講義2：図書2（目録、分類）

講師：長谷川博子（慶應義塾大学医学メディアセンター）

- 15:30~17:00 グループ別討議1：日常業務での疑問点について（図書）

- 17:30~19:00 懇親会

第2日 8月8日(木)

- 10:00~11:00 講義3：相互貸借

講師：阿部美子（北里大学白金図書館）

- 11:00~12:00 グループ別討議2：日常業務での疑問点について（相互貸借）

- 13:00~14:00 講義4：雑誌1（受入と目録）

講師：宇野彰男（北里大学医学図書館）

- 14:00~15:00 講義5：雑誌2（電子ジャーナル）

講師：児玉関（杏林大学医学図書館）

- 15:30~16:30 グループ別討議3：日常業務での疑問点について（雑誌）

- 16:30~17:00 図書館見学

第3日 8月9日(金)

- 10:00~10:40 講義6：情報検索1（医学用語の学び方）

講師：兼岩健二（順天堂大学図書館）

- 10:40~12:00 講義7：情報検索2（PubMed, 医中誌の使い方）

講師：牛澤典子（東邦大学医学メディアセンター）

講師：平輪麻里子（東邦大学医学メディアセンター）

- 13:00~14:00 グループ別討議4：日常業務での疑問点について（情報検索）

- 14:30~15:30 まとめ、修了証書授与、閉会式

実行委員会

山口直比古（東邦大学医学メディアセンター）

押田いく子（東邦大学医学メディアセンター）

三谷千鶴江（防衛医科大学校図書館）

山下 和美（防衛医科大学校図書館）

小田切夕子（麻布大学附属学術情報センター）

及川はるみ（聖路加国際病院医学図書館）

高橋 道枝（鶴見大学図書館）

四方田 均（鶴見大学図書館）